演題番号18	当院における新生児臍処置による臍への影響
発　表　者	市立三次中央病院　主任・看護師　丸田　知実
共同発表者	石田　陽子，松浦　咲生里

当院では退院後の臍トラブルで受診するケースが増加していた。そこで臍処置方法が退院後の臍の状態に及ぼす影響を明確にすることを目的として研究に取り組んだ。研究方法は当院出生の新生児86名の入院中・生後２週間・生後１か月の受診時に臍の状態確認と，母親への問診による追跡調査を行った。調査の結果①母親の臍処置への不安・恐怖のため乾燥までに至らなかったこと②臍切断の長さが統一できず，消毒綿棒が太かったため処置が不十分だったこと③保育器管理や光線療法を行う児に臍トラブルが多かったことが分かった。

MEMO